

電動アシスト自転車について

(公財) 自転車駐車場整備センター自転車研究所 所長 古倉
自民党経済産業部会・配布資料

資料 2

- 電動アシスト自転車の2018年の国内生産台数は約55万台（10年で約2倍）。
- 実証事業では、①買物、通院等を目的とした電動アシスト自転車での外出回数が増加、②行動範囲も拡大したとの報告。普通自転車と比べて脚力を要しないことから、**移動距離によっては高齢者の自動車の代替手段になり得ることが期待。**

特徴

- ✓ こぎ出しがスムーズであり、ふらつきが少ない
- ✓ 疲労が少ないため、長時間の走行が可能
- ✓ 重い荷物等も楽に運ぶことができる
- ✓ 筋力の衰えをサポートすることができる

高齢者への普及

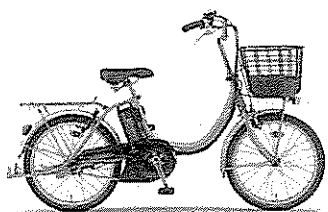


課題

- ✓ 電動アシスト自転車の運転技術を確認する場等が少ない。
- ✓ 安全性や機能性を理解するため、生活に密着する形での試乗が必要。
- ✓ GPSによる行動範囲を把握し、まちづくり施策等に展開が必要。
- ✓ 上記取組は民間単体ではリスクが高く実施できない。また、基礎自治体も財源不足等により実施できていないことが現状。
- ✓ 6月に「未就学児等や高齢運転者等の交通安全緊急対策」がとりまとめられた背景もあり、国の支援が必要。

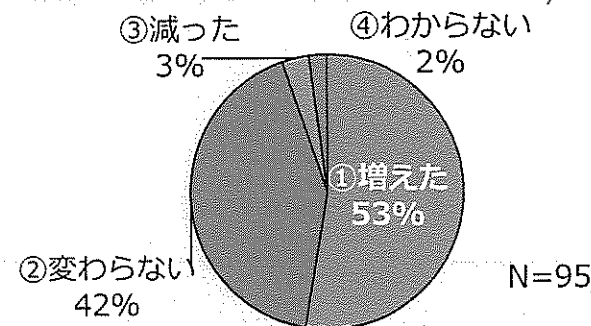
<シニア向けタイプの特徴>

乗車しやすいよう、フレーム形状が工夫されている。



画像：ヤマハ発動機（株）PAS/YPJ公式サイト

<電動アシスト自転車での外出回数の増加>



<電動アシスト自転車が代替する交通手段>

